

## 第2回県西地域懇談会

### 「経済圏の広域化と行政の対応」

#### ～ 高齢化のもと人材を含むインフラ競争力の充実 ～

10月10日(金)湯本富士屋ホテルに100名を超す参加者が集まった。

冒頭、尾関委員長より「今の世界は国境を越えて地域間の直接競争の時代となった。本日のシンポジウムが少しでも地域の活性化へ繋がればと思っている。」とご挨拶があった。その後、一橋大学・辻琢也教授の課題提起を皮切りにシンポジウムをスタートした。

#### <課題提起>

日本全体の高齢化率は、今のままでいくと2030年に30%になる。今から少子化対策、外国人労働者を入れたとしても超高齢化時代への突入は避けられない。国としての対策に、分権や市町村合併、定住自立圏構想、道州制があるが、県西地域を中心とした首都圏はこれらに対してどう解決していくかという問題がある。具体的に食料・エネルギー・空港・物流など、これらをどうバージョンアップしていくかが大きな課題である。



県西地域は、合併すると全体で約36万の人口となり中核市という位置づけになる。更に今後の人口数は、平成42年には平成17年より2割弱減るとなり、産業関係も伸び悩み右肩下がりの状態となるであろうと予測されている。

#### <現在おかれている状況認識とこれまでの方策>

##### 富士フイルム・関口伸永神奈川工場長

今は、産業構造の変化の大きな流動期にある。第3次産業、ソフト化により大都市への集中が更に進んでおり、地方にとっては、難しい状況。県西は、土地はあるが交通事情と関連産業の配置には少し疑問符がつく。県西地域の幹線は、東西にはあるが南北には少ない。



今後、工業・流通・第3次産業といった会社を



誘致し魅力ある土地を作っていけば、人口の増える地域になる。更に、海岸線や歴史ある城下町、バックに箱根というように大変恵まれているが、もう一つ魅力あるということに結び付いていない。地域として持っている利点をどこまで活かし、魅力作りができるかがポイント。

##### 日本経団連・井上洋産業第一本部長

今は、国内の各地域は、グローバルな地域間競争を強いられており、過疎化や後継者難により存続できない地場企業が多くある。



神奈川もインフラ面で遅れており、雇用を増やすための産業立地を進め、地域に根ざした産業振興のためにも、道州・基礎自治体の連携が必要である。観光に関しても県域を越えた広域的な連携をとって戴きたい。

##### 小田原市・加藤憲一市長

現状としては、活性化という状況に至っていない。問題は、地域の諸課題に対しどのようにアプローチするか。一つは、都市基盤の整備不備に対して手を打つこと(量的)。もう一つは、持続可能な地域を支える地域(市民)の力(質的)。この二つを同時に整えていくことが必要。



地域の持っている資源を活かすための広域経済圏づくりが必要。2市8町それぞれの特徴・資源を活かすための交通網の整備、経済界の交流の仕

組を2市8町で連携しながら進める必要がある。

### 神奈川県・小野義博副知事

県内の人口は、平成31年まで増加が続くと推測。ただ、少子化や高齢化に関しては全国を上回るスピードで浸透していくと前提し、様々な政策を検討している。



産業分野の政策は、企業誘致（インベスト神奈川）、神奈川R&Dネットワーク構想。県西地域の取組は、地域資源を活用した取組、国際観光地箱根の進行、山梨・静岡との連携、道路整備網。

#### <今後の対応・それぞれに望むこと>

##### 関口工場長

行政が一体となり「広域行政」にして戴けると大変有難い。道路に関しても環状道路を作り、市内を通過する車が中心部に入らないようにするというのも一つの手だと思う。

##### 井上本部長

日本には、道州制を実施するとヨーロッパ中堅国ほどになる地域がある。例えば、北海道がフィンランド、九州がオランダ、沖縄がハワイで。オランダが九州の1.5倍のGDPであり、公共投資が16.5%減（6,200億）となる試算もある。

##### 加藤市長

県西というブランドイメージを十分活用し、事業に活かして戴きたい。地域内にある隠れた技術を地域住民に知って戴く仕組みを作り、地域と企業が一緒になって発展していく関係が築けたらと思う。

##### 小野副知事

産業界には、雇用の確保と税収の確保を一番望んでいる。その他にも障害者雇用にもっと積極的に取り組んで戴きたいと思っている。

#### <まとめ>

##### 小野副知事

今後、道州制についての議論が広がり、「道州制にいくべきだ」と気運が醸成されることが不可欠。

##### 加藤市長

2市8町がいずれかの時期の一つになっていくことが望ましいと思う。

##### 井上本部長

2市8町としての特徴を十分に活かせる地域づくりをして欲しい。

##### 関口工場長

地域と一体となって競争社会に勝っていく会社を作ることが使命だと思っている。

アメリカの州のような「地方分権」は、日本人の特性（均一性を好む）を考えると国民が受け入れられない可能性があり難しい気がする。

#### 辻先生からの総括

県西地域の立地の良さを再認識し、官民が協働し、もう少し工夫することで、食の面、住の面でも日本で最も素晴らしい行政・企業の連携が達成できるのではないかと思います。

#### <会場からのご質問・感想>

##### 南足柄市・沢長生市長

1. 県西地域全体での青写真を市民も一体となって描く必要があるのではないかなと思う。  
私もその点は、仕組みづくりから是非進めていきたいと思う。（加藤市長）
2. このような青写真を描く為には、土地利用規制の柔軟な見直しが必要  
頑なに駄目だという事でない。そうなった場合には、相談していきたい。（小野副知事）
3. 地域圏の一体化が進む中、行政の一体化が遅れているので合併が必要ではないか？  
住民の意見を聞きながら進める必要がある。  
（加藤市長）

##### 南足柄市商工会・西嶋泰彦会長

2市8町の経済政策がそれぞれ分かれていたら、良い方向にはいかないと思う。行政が一体となり進めて戴きたいと思っています。

#### <交流パーティー>

冒頭、東京電力・中村節小田原支社長よりご挨拶を戴き、開催地を代表し山口昇土箱根町長の乾杯で始まり、途中横浜から駆けつけて戴いた高橋会長よりご挨拶を戴き、最後は宮本地域活性化委員・幹事会社（富士フィルム）のご挨拶で締め括られた。